第934回

定例教育委員会会議録

日 時 令和6年11月19日（火） 10:00～

場 所 益田市立市民学習センター 102号室

益田市教育委員会

第934回 教育委員会定例会

招集年月日 令和6年11月19日（火） 10:00～

招集場所 益田市立市民学習センター 102号室

議事日程

第1 会議録の承認について

第2 教育長報告

第3 議題

報第48号 地域公共交通について

報第49号 益田市の1人1台端末の活用状況について

第4 その他

(1) 情報提供

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長	領 家 芳 明
教 育 委 員	大 庭 隆 志
教 育 委 員	齋 藤 哲 瑯
教 育 委 員	原 田 笑
教 育 委 員	山 本 ひとみ

事務局職員

教 育 部 長	長 嶺 勝 良
教 育 総 務 課 長	齋 藤 勝 義
学 校 教 育 課 長	田 原 正 紀
学 校 教 育 課 参 事	杉 原 貴 宏
学 校 教 育 課 学 力 育 成 推 進 室 主 任	田 村 陽 介
協 働 の ひ と づ く り 推 進 課 長	岡 崎 健 次
文 化 振 興 課 長	田 中 一 史
美 都 分 室 長	澄 川 武 寿
教 育 総 務 課 長 補 佐	植 田 拓 也
連 携 の ま ち づ く り 推 進 課 地 域 交 通 対 策 室 長	宅 野 慎 也

領家教育長 定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第934回益田市教育委員会定例会を開催いたします。
それでは議事に入らせていただきます。

第1 会議録の承認

領家教育長 前回定例会の会議録につきましては、委員の皆様には先ほど承認いただきましたので、ご報告させていただきます。

第2 教育長報告

領家教育長 続いて、議事日程第2、教育長報告に移らせていただきます。
資料は議事日程の次のページをご覧くださいと思います。
私からは、大まかに3点、皆様にお知らせさせていただこうと思っております。

1点目は11月1日です。第2回益田市小中校長会研修会を開催いたしました。集まっていた校長に向けて2つのことについて私の方から話をさせていただきました。

1点目は、教育にかかる益田市の計画の確認をしてほしいということです。4月から新しい年度がスタートして半年ほど過ぎまして、これから半年頑張っていこうと努力されている中で、今一度、教育の大綱や益田市教育ビジョン、社会教育推進計画、ひとづくり協働構想、未来を担うひとづくり計画、今後の小中学校のあり方に関する基本指針の6つの計画を確認していただきたいと依頼しました。それぞれの学校で指針にうたわれているような状況が培われているのか、また公民館や学校、地域の方々、自治組織等とどんな連携が必要なのかという辺りも併せて検討してほしいというお願いをし、また職員への周知も再度行ってほしいとお話ししたところです。

2点目は、6月、9月議会で議員の皆様方にいろいろご提言いただいたり議論させていただいたことについて3点ばかりお話させていただきました。

1点目は、確かな学力の育成についての考え方です。それから、益田市がこれまでも大切に、これからも大切にしようとしているキャリア教育のことについてです。最後は、それだけじゃなくて、心をどう育てるか、あるいは健やかな体をどう育てるかということについてです。それらのことについて議論した内容を紹介しながら校長先生にも広くお感じいただくことを目的にお話し

せていただきました。

以上が、1つ目の小・中校長研修会でのお話です。

2つ目は、11月11日、グラントワで行いましたドリカム講演会についてのご報告でございます。

これは、益田市型中高一貫教育ということで益田市中高連携学力育成推進事業の一環として益田東高校に委託しているものの一つの発表の場としてドリカム講演会を実施いたしました。これからの学力、未来をどう子どもたちに育てていくかということで行ったもので、今年で2回目の開催になります。今回は、隠岐郡海士町出身の井手上漠さんという21歳の方を講師としてお招きして講演をしていただきました。井手上さんは島前高校在学中にはジュノンスーパーボーイというものに応募をされて、大賞をいただいて、モデル活動等も行われている方です。それからジェンダーについても小学校のころからかなり意識されていて、小学校の頃から髪を長くしながら小・中学校を海士町という独特の環境の中で過ごされた方です。ですから、大きくなる過程の中でそういうギャップ等に本人も悩まれましたし、あるいは同級生とか子どもたちにその環境の中で自分なりの生き方を強く求めてこられた方でもあります。この井手上さんが講演に入る前に、会場の中に流されていた言葉の中にこんな言葉がありました。「学びを通じて、自分らしく輝く。みんなの好きなものは、乱暴に扱えば自己中と、大切に扱えば唯一無二となります。どうか大切に育ててください。あなたがあなたらしく輝けることを願って。」という言葉です。子どもたちや保護者の方たちが入ってくる待ちホールのスクリーンに掲げてございました。基本的に井手上さんがお話されたのは、自分の生きざま、そして自分の夢みたいなことでした。「好きこそものの上手なれ」というのが、自分が恩師から教えてもらった大切な言葉だそうです。その中でも、知識や知恵ではない知見を自分は本から学んできた、知識や知恵は書いてあるんだけど、それらを通して自分で考えて知見とすることを本を通して学び、その知見があったからこそ、ずっと自分なりの好きを通じて今も生きている、夢を持って生きている、だから、自分の好きなことを大事にしてというようなことを子どもたち、あるいは保護者の方たちにメッセージで伝えてくださいました。学校に行くのも苦しい子どもたちが益田にもたくさんいるんですけど、そんな子どもたちに是非聞いてもらいたいような、そんなストーリーでした。聞く言葉はどんどん耳から消えていくけど、その聞いた言葉をきっかけにして本を繰り返し何度も読めば、それ

が知識じゃなくて知見となる、そんなことを大事にしてほしいなということをおっしゃっていました。終わってから少しご挨拶する時間があったので、21歳でどうしてそこまで語れるんですかと聞いてみたんです。そうすると、やっぱり本の力が大きかったことと、いろんな苦しいこともあったけど、出会った全ての人ではないけれど、そうした方たちの生きざまなどを見て、それを自分なりに知見として捉えて今の自分があるんですと強く語ってくださいました。私62年生きていますけど、負けそうだなと感じました。今夢を持っていて、自分が一番大事にしたいのは美容だということでした。子どもの頃は美容師になりたかったんだけど、美容をプロデュースしながら起業家としていろんなことに挑戦したい、そんな仕事がしたいと、もう既に思っておられるそうです。本当にすごいなと思って、とってもしい方を益田市にお呼びできたと思いますし、島根県ってあまり呼んでもらえないので、幾らでも来ますからまたお声かけてくださいというようなこともおっしゃっていただきましたので、皆様方にご報告させていただきます。

最後になります。13日に松江市でありました市町村の教育長会議・学力育成会議に出てまいりましたので、そのお知らせです。9時から開催でしたので、普通だと朝5時半の特急で行けるんですが、大雨の影響でJRが一部運休していたので、前日夕方5時発の代替バスに乗って三隅駅へ行き、そこから鈍行で向かい、出雲市までたどり着いたのが夜9時でした。その日はそこで泊まって、次の日に出雲市から松江市に向かいました。会議で話し合われたことは、教員の働き方改革について、それから基礎学力の育成、幼・保・小連携接続の推進、それから不登校の児童・生徒への支援という4つのテーマで3時間ばかり議論をしてまいりました。不登校の支援では、フリースクールということを最近文科省が言っておりますので、島根県の状況とか益田市にも幾つかフリースクールがありますが、それについて、行政と学校現場とフリースクールの連携の大切さみたいなことを伺いました。基礎学力の育成では、連合会の研修会で皆さん方に聞いていただいた、たつじんテストの言葉、形、数、これを大事にするようなことについて、それから働き方改革では、デジタルDX化みたいなことのテーマでいろんな議論をさせていただきました。先ほど申しました県の教育長の訪問が、これまでは働き方改革、基礎学力の育成についての訪問が中心でしたけど、来年度に向けては幼・保・小の連携、接続テーマにして、たつじんテストの言葉、形、

数みたいなのところも含めて、少し考えていきたいというよう
なことがありましたので、ご報告をさせていただきます。

この間の私の大まかな公務につきまして以上となります。

委員の皆さんにおかれましては、詳しくお聞きになりたい点と
かがありましたら併せてお話ししますが、よろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

領家教育長

それでは続きまして、9月にいただいた寄附と寄贈について紹
介させていただきますので、次のページをご覧ください。

以前、市立図書館に外国語の本を寄贈いただきました国際ソロ
プチミスト益田の方々から、今回は小・中学校の施設整備にお金
を使ってくださいということで現金の寄附をいただきました。学
校のトイレ改修の現状ですとか鉄棒を新しくしたことなどを写真
でお示ししてお伝えさせていただきながら、このお金はそういっ
たことに使わせていただきたいとお話しました。そうしましたら、
もう何でもいから使ってくださいというお言葉をいただきました。
ソロプチミスト益田の皆様にはここ数年続いてご寄附を
いただいていることに対しましても併せてお礼を申し上げます
た。

以上、報告とさせていただきます。

第3 議題

報第48号 地域公共交通について

領家教育長

続きまして、議事日程第3、議題に移らせていただきます。

本日の議題ですが、報告案件が2件となります。

それでは、報第48号地域公共交通について事務局より説明を
求めます。

田原課長

地域公共交通についてということでございますけども、委員の
皆様方もご承知のことと思っておりますが、市内の路線バスを運行して
おります石見交通株式会社のほうから路線バスの匹見線、梅月
線、種線について廃止をするということが明らかにされております。
これについては、小・中学校の通学にも影響が出てくる課題
でもございます。現在の状況につきまして、市長部局の担当課で
ございます連携のまちづくり推進課のほうからご説明させていた
だこうと思っています。

領家教育長

宅野室長よろしくお願ひします。

宅野室長

連携のまちづくり推進課地域交通対策室の宅野と申します。

私の方から新聞報道等もございました路線バスの廃止の課題に

ついてご説明させていただきます。

これにつきましては、10月23日に中国運輸局から正式に公示がされております。交通事業者である石見交通株式会社からは、運輸支局へは9月12日に廃止届が提出されております。廃止の予定日については、令和7年3月16日からということで公示をされております。廃止される路線につきましては、3番に記載しておりますけれども、匹見線、それから梅月線、種線の3路線、全23便が廃止される予定となっております。

廃止の理由についても記載のとおりです。利用者が少ないため、採算が取れず、また運転者の高齢化と求人難ということで維持が困難になったとされております。本年度におきましても4月と6月、9月、それから11月に減便あるいは運休が相次いでされているという状況で、全体では合わせて減便が18便、それから停留所の廃止が1か所、運休が35便ということでした。今回これに加えて23便が廃止ということになっておりまして、市全体でも縮小傾向に歯止めがかかっていないという状況が続いております。しかしながら、9月に33便が減便をしていたんですけども、これについては11月16日から通常運行を再開するというので若干改善はされておりますが、廃止については予定どおり行われるという現状となっております。

そういった中で、特に匹見線と梅月線については西益田小学校、それから横田中学校への通学利用がございます。梅月線については、西益田小学校での利用が16人、横田中学校での利用が4人、匹見線については8人が白岩方面から利用しているということで、市としましては通学利用の生徒さんを最優先する形で代替案を設定していきたいということで、現在検討しているところです。代替案としましては、これは記載にはございませんが、現状のところでは、1点目はスクールバスに近い形で運行していくものです。要するに、一般の利用客については別の便を改善や修正をする中で対応して、通学生についてはスクールバスとして通学利用に使っていただくということを考えております。先ほど申し上げました対象としては、小学生が16人、中学生が4人、白岩方面からは小学生が8人ということで設計をしております。車両につきましてはマイクロバスを使用して、29人乗りになりますが、これで梅月方面、それから白岩方面を一度に運べるような形で路線を配備していきたいと考えております。ただ、課題がございまして、帰りの便については低学年や高学年、それから小学校と中学校で下校の時間が変わってきます。ここをどうするかと

ということで教育委員会を通じて学校に問合せをしたり、あるいは保護者さんと連携を取りながら一番いい形でダイヤを配置していきたいと思っております。併せまして、車両の関係についても先ほどマイクロバスを使用すると言っておりましたが、現在スクールバスの利用も市内で増えてきております。現行の市内の交通業者が保有している車両についても極めてぎりぎりの状態というところがありますので、この辺りも確認をしながら、場合によっては、小型の車両を使う中で学年を限定して往復をしていくとか、少し複雑になるんですけども、そういった形も取らざるを得ないのかなというふうに現行では考えております。いずれにしても3月16日からの移動手段がないといった空白期間を設けないように、市としてはしっかりと対応してまいりたいというふうに考えております。

今後の日程につきましては、遅くとも12月の中旬までのところでは形を決めまして、保護者の皆さん、あるいは学校、それから沿線の自治会との説明会や意見交換を経まして代替案を決定し、12月の中旬にはその変更した案を中国運輸局のほうへ申請をしていきたいというふうに考えております。3月16日の運行に間に合わせるためには、運輸局への申請から許可までおおむね3か月ほどかかるというふうに聞いておりますので、時間的制約の中でかなり厳しい時間設定ではあるんですけども、こういった日程で今後進めていきたいと考えております。

以上、報告させていただきます。

領家教育長

ありがとうございました。

ただいま説明した件につきましてご質問等ありましたらお願いいたしますが、いかがでしょうか。

山本委員

確認ですが、路線バスの廃止に伴う通学路の影響については、匹見についてはもう既にスクールバスがあります。西益田小学校、横田中学校についてはマイクロバス等を利用したスクールバスに近い形で運行を考えるとということで、大きく影響はないということよろしいでしょうか。

もう一点ですが、先ほども言われましたように新たな形での開始まで実質4か月切った状況の中で、今後色々なことを調整して、地域への説明をし、届出をして、契約をしてということで、やることが多く非常にタイトなスケジュールではあると思うのですが、今のところで何か新たな形態への目途はついているのでしょうか。例えば請け負う事業者の方であるとか関係機関との調整が進んでいるのかなどです。なかなか公表できないこともある

と思いますので、少しそのニュアンスを教えていただけたらと思います。

宅野室長

特に小学生の利用に関しては、匹見線ご利用の8人、それから梅月線ご利用の20人については影響がないように代替案を設置していきたいと考えております。そこについては、市が責任を持って走らせると考えております。それから、現行は乗合タクシーをまず運行させるということで話を進めておりました。乗合タクシーとなると、市内のタクシー業者さんが運行の主体となって対応するわけですけれども、その協同組合については確認をしまして、現行であれば乗務員あるいは車両については確保できるという返答はいただいております。ただ、スクールバスの形でマイクロバスということになりますと、大きい車両が必要となってきますので、ここについては現在安田小学校でマイクロバスを利用されているということですが、これは来年から人数の関係から少し小型化するというふうに聞いております。ですので、マイクロバスの車両は確保できるのではないかと考えておまして、それについては今後早急に確認を取ってまいりたいというふうに思っております。おおむねそういった案で運行できるのではないかと考えております。以上でございます。

山本委員

石見交通の路線バスの廃止については、私は、影響地域に居住しておりますが、新聞報道とほぼ同時に知りました。減便やバスの小型化ではなくて、全くなくなるということで、ちょっと驚きました。地域の少子・高齢化ですとか人口減少が進む中で地域公共交通の維持というのはなかなか難しい課題ですし、これまでも皆さん方が常に検討して調整しておられるということも知っているところではありますが、それであったとしても今回唐突の感は否めません。これから地域への説明もあるかと思えます。詳細は分かりませんが、この件に関しこれまで関係機関と調整してこられたことすとか、地域交通会議も定期的を開催しておられると思うので、その中で検討してきたことを地域に分かる形で併せて示していただくといいかなと思いました。

領家教育長
教育委員

ありがとうございます。そのほかよろしいでしょうか。
＝全員了承＝

報第49号 益田市の1人1台端末の活用状況について

領家教育長

続きまして、報第49号益田市の1人1台端末の活用状況について事務局より説明をお願いします。

田原課長

そうしましたら、益田市の1人1台端末の活用状況についてということで、GIGAスクール構想の中で今年度4年目を迎えております。そういう中にありまして、今現在どういう活用を学校現場でしているのかということにつきまして、委員の皆様方にも報告させていただこうと思っております。詳細につきましては、担当の田村のほうから説明申し上げます。

田村主任

学校教育課学力育成推進室の田村です。お時間いただき、ありがとうございます。私のほうから説明させていただきます。

先ほど、課長のほうからありましたが、1人1台端末を貸与して4年目でありますけれども、時間が経つごとに活用が進んで、授業改善も図られて、子どもたちが学びの主体となっていております。前のスライドのほうを使って説明をさせていただきます。これまでダイナブックとの連携事業を通じて毎年数校を推進校として指定して取り組んでまいりましたが、この取組が横展開を見せているということをご覧いただきながらご説明いたします。また、益田市発の「せっていのとびら」というアプリケーションが全国展開しておりますので、こちらも併せてご説明いたします。まず、推進校の取組の横展開でございます。こちらは、桂平小学校と匹見小学校の1年生が行ったオンライン合同授業の様子です。画面のほうに映っておりますのが、匹見小学校の1年生です。匹見小学校は、令和5年度の推進校であり、今年度は推進校ではありませんが、昨年度までに得た知見を生かして、今年度推進校となっている桂平小学校に対して、当日や準備段階で様々なフォローをしております。この匹見小学校の働きというのは市教委から指示したものではなくて、桂平小学校からの自発的なお願いを受けて進んで行っているものです。この授業そのものは両校の自走で実施された授業となります。当日の授業の様子を30秒にまとめた動画を作成しましたので、ご覧ください。

〔動画上映〕

自分の意見を伝えようと画面の前に飛び出していったり相手の意見に対して自発的に拍手を送ったりと、生き生きと学習に取り組んでいた1年生の様子をご覧いただけたかと思いますが、この桂平小学校の1年生は在籍が2人であり、極めてお互いをよく知っている間柄で、ふだんはこの画像のように友達の見聞を集中して聞くということはなかなか多くはない状況があります。オンライン合同授業を実施して協働的な学びが実現して、同学年の子ども同士の多様な意見に触れることができ、学習意欲の劇的な高

まりが確認できています。

こちらにもオンライン合同授業の様子になりますが、こちらは小規模6校の合同授業になります。東仙道小学校の房野校長先生がダイナブックとの事業で関係ができた東京学芸大学の森本先生と自ら連絡を取り合いながら実践した対話型鑑賞の取組です。マイクロソフトのチームズのオンライン会議でグループごとのブレイクアウトルームを作成して、右側に映っていますが、このグループで協議をしています。発言内容はデジタルホワイトボードにメモを残していった、各グループにファシリテーター役の先生が1人入っています。子どもたちが自分の考えを発言できる、全員が発言できるというような環境を整えて授業を実施していました。また、グループでの協議が済んだ後は、全体の場で各グループの協議内容を紹介する時間が設定されていました。この日の授業では総勢50人を超える子どもたちが参加していたんですけども、オンラインで実施したことにより、全員が各グループのホワイトボードを確認することができました。画面にたくさん小さな矢印が出ていますけども、こういうふうに同時に1つのホワイトボードに参加することができます。参加している子どもたちはこのように同時にこの資料を気にしながらお互いの意見を述べていました。

このほかにも、オンライン授業は実践が重ねられているところです。西益田小学校において行われた様子をご覧ください。

〔動画上映〕

ご覧いただいたように学級内に例えば20人を超える子どもたちが在籍している環境においても、他校の子どもたちとのやり取りによって子どもたちが伝えようとする姿勢は向上しており、学習意欲の高まりが動画においても確認いただけたかと思います。今ご覧いただいているこの画像は、豊川小学校で実践された様子ですが、今年度実施済みのオンライン合同授業だけでも、桂平小学校と匹見小学校、西益田小学校と匹見小学校、豊川小学校と真砂小学校、小規模6校において実施されております。これで終わりではなく、今後も随時実施予定されており、推進校の取組について文科省等でもいろいろと研究されてきましたが、他でも実現できていない横展開が益田市においては実現しているというところになります。

1人1台端末の活用においては、オンライン合同授業以外の取組も実践されております。こちらは、小学校6年生の社会科の歴史の授業において子どもが作成したパワーポイントのスライドな

んですけども、小学校6年生ですが、白紙のパワーポイントから作成したものになります。端末の活用が進み、子どもたちのスキルは高まっているということを確認いただけるかと思います。このスライドを作成するために、子どもたちは教科書を大切にしながら「NHK for School」をはじめとしたウェブでの資料からも情報を収集しております。先生の話だけで情報収集するのではなく、主体的に調べ学習に取り組んだからこそこのスライドのクオリティになっているかなというふうに感じているところです。先ほどのパワーポイントのスライドですが、チームズを用いてオンライン上、クラスのみなどと、左側のところですが、共有されています。クラスの誰もが、誰がどんなふうに作っているのかというのを途中から確認できるようになっているため、例えばどのようにスライドを作成していいかわからないというふうに困ってしまう子どもたちにとっては、ほかのできる友達を見えるというのは支援にもなりますし、自分のスライドをより良くしていこうというときにこんなやり方があるんだとアイデアをもらえる機会にもなっています。ただ画面に向かって黙って作業しているだけでは気づきが生まれにくくなりますので、教室にいる間はそれぞれの進捗状況を確認しながら対話をすることによって、新たに気づきを得てスライドをより良くしていっています。この単元の初めのところで外部講師の方が来られるんですけども、この外部講師の方ともデータが共有されているため、作業途中のところで外部講師からコメントをもらっています。このようにこれまでも実現できなかった形での対話的な学びというのが、端末活用によって実現をしているところです。先ほどスライドでご紹介したこの外部講師からのコメントですけれども、このお子さんはコメントをもらった後日、調べ直してからきちんと返信をしています。対話的な学びを通じて、この調べ学習の深まりを見せていると捉えられるかなと思っています。

また、これはある学校で作成されているチームズのチームの画面です。先生と子どもが一緒に入っているチームが作成されていて、子ども自身が自分の学びをそのメンバーみんなに発信できる仕組みになっています。この発信された学びに対しては、友達の学びを認めるリアクションを送り合っています。このように自分の学びを発信する機会をつくり、適切なリアクションを取るよう学校においてご指導いただいた結果ではありますが、このような経験を通じて学びに向かう人間性の育成も端末を活用して実施されているところです。

子どもたちの手に端末が行き渡ったことによって、子どもたちにとってよりよい学びになるよう授業の形も変わってきております。この画像は中学校での授業の様子ですが、電子黒板に教師が提示している資料と全く同じものが子どもたちの端末にも共有されています。これまでは授業で使用する情報は先生が全て持っていて、子どもたちはどうしても受け身にならざるを得ない状況、情報格差があったわけですが、教師も子どもも同じ情報を持っている新しい学びの形というものが生まれてきています。この先ほどの授業の続きですが、実験の様子を子どもたちが動画撮影しているところです。先ほどご紹介したように、教師側が子どもへ情報を共有するだけではなく、子どもたちが作成したデータも教師と共有されています。新しい学びの形というものに子どもたちも適合していているところです。この後、教師と子どもの情報格差がなくなったことにより、このように共通のデータを基に議論するということができるようになりました。そばで見ている先生たちも見ている資料が共通になったことで、サポートのほうもより適切になり、子どもたちが学びを深めるための支援というのが可能になってきているところです。

ここでもう一件、このたび益田市発のアプリケーションが全国展開しておりますので、ご説明いたします。

最初に、「せっていのとびら」とは何かについてご説明いたします。今、益田市が導入しているウィンドウズの端末にはアクセシビリティを設定できる機能があります。アクセシビリティというのは、色覚特性がある方や聴覚障害がある方でも誰でも簡単にレスポンスを使えるようにする機能のことです。この機能自体は以前からあるものですが、設定画面から該当の調整をする場所までたどり着くのに階層が深くて非常に難しい、子どもたちにとっては苦しいというところがありました。ここに簡単にたどり着けるようにしたのが、この「せっていのとびら」です。このシステムは、益田市内の教員の発案によりダイナブックが開発したものになります。画面は、子ども自身が「せっていのとびら」から自分が見やすいように画面の見え方を調整している様子です。これまではその設定画面に容易にたどり着けなかったのが、ほんの数秒でさっと調整を終えていました。開発の経緯もご説明いたします。昨年度の2月にダイナブックとの事業の公開授業時に、鎌手小学校の岡本先生がダイナブックの担当者の方に、誰でも簡単にアクセシビリティの設定が可能になるようにできないかと話を持ちかけたところからスタートしております。これを受けて、ダイ

ナブックのほうがアメリカマイクロソフト本社に開発依頼を出して、すぐさま認可を受けて開発をスタートしました。このアメリカマイクロソフト本社というのは、他者の意見、たとえば日本マイクロソフトや文科省からの要望って全く受け付けてくれないんですけども、すぐ認可を受けたということです。極めてまれで、快挙に近いことです。開発は順調に進んで、本年度の8月末にダイナブックのウィンドウズ端末向けに正式リリースされています。益田市内の教職員端末と児童・生徒端末には9月末までに「せっていのとびら」のインストールを終えて、使用を開始しているところです。益田発のシステムが既に全国展開しているところです。これまで関係性を築いてきたからこそ、こうやって早く動いていただけたというところはあるかなというふうに感じております。

PRよりも先に子どもたちの手元に届くようにというのを優先したために、PRができていない状態なんですけれども、PR動画として、先日鎌手小学校において発案者の岡本先生と私のインタビューを撮影し、授業において端末を活用している様子ももう撮影済みです。年末に動画を完成させて、ダイナブックの公式ホームページとマイクロソフトの公式ユーチューブチャンネルにて公開される予定となっております。ほかにもインターネット記事になりますけど、インプレスという会社の「こどもとIT」というウェブページの枠で鎌手小学校の岡本先生と私のインタビュー記事が掲載される予定となっております。こちらも既にインタビュー自体は済んでおります。動画が完成したタイミングぐらいになろうかと思いますが、ひとまるビジョン等を活用した市内広報も検討しておりますので、ご紹介いたします。

終わりになりますが、益田市内で今実証研究として生成AIの授業での使用について検討を始めているところです。生成AI、危険性がすごくあるという中ではありますが、子どもたちはスマホやゲーム機等インターネットにつながることができて、生成AIを触ることはもう既にできる、簡単にできてしまうという状況があります。安全かつ子どもの学びを深めることに資する授業での生成AI活用方法というのはどういうものかというのを模索するために、市内中学校教員4人から成る端末活用プロジェクトチームを組織して先進地視察や東京学芸大学の森本教授にもご助言いただきながら検討を重ねて、現在その4人がいる学校2校において、保護者同意を取得して試験的に授業での活用を開始しているところです。2月の成果発表会においては、その検証結果を市

内の先生方に報告を予定しております。生成AIについての文科省のガイドラインが出ているんですけども、そこでは例えば自治体教育委員会が一律禁止というような硬直的な対応っていうのが否定されているところがありますので、ではどのように使うのが安全なのか、またはこういうふうな使い方は駄目なのかというところも市内の先生方に教育委員会として提案できるような形を取りたいと思っているところです。市内の先生たちや生徒が間違っただけ、誤った使い方、学びにならない使い方、ただのコピーアンドペーストに走るようなことを防止するためには、こちらとして知見をためていかないといけないかなというふうに思っているところです。

以上になります。

領家教育長

ありがとうございました。

1人1台端末の活用状況について報告いただきました。ご質問等ありましたらいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

大庭委員

感想ですけども、オンラインの合同授業が、少人数の学校につきましては、いわゆる閉塞感を脱却する非常に有効な手段じゃないかなということを感じて持ちました。

それから、この資料ですけど、私は一応社会科の教員なんですけども、「これが安土城」って2つありましたが、あれは全部大坂城です。ここは直したほうが良いと思います。以上です。

領家教育長
齋藤委員

ありがとうございます。その他ございますか。

少しお伺いしますが、先ほど「せっていのとびら」がオープンになっているという話でしたが、これはアプリをダウンロードする必要があるのでしょうか。それとも私たちもコードを読ませれば見ることはできるのでしょうか。

田村主任

ダイナブックの公式ホームページのところからダウンロードできるようになっています。

齋藤委員
田村主任

ダウンロードする必要があるのですか。

はい。市内の先生方や子どもたちの端末は教育委員会が一元管理をしているので、一括ダウンロードしておりますが、その他の方は個々での対応となります。ただ、お使いの端末がもしダイナブックのウィンドウズ機であれば、ダウンロードすればどなたでも使えるという状態になっています。

齋藤委員

分かりました。

領家教育長

そのほかいかがでしょうか。

原田委員

この「せっていのとびら」ですが、益田市の熱意ある先生によってこのような形で使用が進められているというのは本当にあり

がたいことだなというふうに思います。ただ今までも皆さんがおっしゃってきたことだと思えるんですけども、1人1台端末の活用というのが手段ではなくて目的になってしまわないかというところを懸念しています。すごく有効的な活用方法をいろいろご紹介いただいたんですけども、やはり話を聞いていると、活用しないといけないから活用しなくてもいい場面でも無理して活用して、教員の方の負担が増えてしまうというような場面もまだあるのかなと思いました。どういうときに使ったほうがいいのか、無理して使うことなく、有効活用できるようにというのは続けてお伝えして行ってほしいなと思いました。

領家教育長

よろしいですか。

田村主任

ありがとうございます。

領家教育長

そのほかいかがでしょうか。

山本委員

先ほどの「せっていのとびら」ですが、該当のお子さんたちも既に活用されているのでしょうか。

田村主任

もう使えるようになっていて使っています。先生たちや各学校にはメッセージ等で周知をしていて、子どもたちも喜んでいるという反響もあるんですけど、先生自体が端末の見え方がどうしても苦しい方もおられたみたいで、端末自体が自分に寄り添ってくれている気がする、自分に見えやすいように設定できるということで非常にうれしいという声をいただいております。

山本委員

すばらしいと思います。

領家教育長

ありがとうございます。

目的化されずに本当に必要なときに有効なツールになるように、活用していただけたらと思います。

この件についてはよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

領家教育長

それでは、本日予定しておりました議事全てが終了いたしました。これをもちまして第934回益田市教育委員会定例会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

= 終了時間 11時00分 =